

第1学年国語科学習指導案

日 時：令和4年11月10日 5時間目

対象学級：北上市立江釣子中学校 1年A組

指 導 者：釜石 久美子

1 単元（題材）名 人物相関図で古文の世界を味わおう

教材名 蓬莱の玉の枝——「竹取物語」から（「国語1」 光村図書）

2 単元（題材）の目標

- (1) 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 「知識及び技能」(3) ア
- (2) 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えることができる。 「思考力、判断力、表現力等」C (1) イ
- (3) 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 単元（題材）について

(1) 生徒について

生徒は、小学校第3学年及び4学年でことわざや慣用句、故事成語について学び、第5学年と第6学年においては、古文や漢文のだいたいの意味を知り、言葉の響きやリズムを味わいながら音読する学習をしてきている。本単元をそれらの学習と結び付け、中学校での古典学習の入り口として抵抗なく学習に入っていけるようにしたい。

本学級の生徒は、自分の考えを持ち、それを文章などに書き表すことができる。しかし、自分の意見を発表する場面になると、なかなか大きな声で発言できない生徒も少なくはない。グループ活動など、少ない人数の話し合いになると、発言できる生徒が増える様子が見られる。

これまでの学習において、1学期には「シンシユン」で本文の描写から心情曲線を書く学習をした。2学期には「星の花が降るころに」で登場人物の人間関係を人物相関図にする学習を行った。この学習を通して、本文の叙述を根拠に、登場人物の心情の移り変わりを捉えられるようになってきた。その一方で、本文の叙述の表面だけを追い、登場人物の言動の裏に隠された心情を捉えることが十分にできない生徒も多い。そこで、既習事項を活用し、人物相関図を作る活動を通して、登場人物の言動と心情をより深く捉えられるようにしていきたい。

(2) 教材について

中学校の古典学習の入り口の教材である。翁が竹の中から女の子を得る冒頭場面と、姫に求婚した「くらもちの皇子」の冒険談、かぐや姫の昇天後に不死の薬を燃やすという帝の行動を描いた3場面構成されている。子供を得た翁たちの喜び、悪だくみをしてまでも姫を手に入れるようとする皇子たちの策略と失敗など、時代は違っても現代に通じる感情の動きがあることに気づくだろう。その気づきをより深いものにするために、人物相関図を作るという言語活動を位置付けた。この言語活動を通して、古典の世界と現代の世界のつながりを実感させ、古典に親しむ態度を育てていきたい。中学校での古典学習の導入であることを考慮し、現代語訳から内容を考えさせるようにし、古典学習への抵抗感を減らしていきたいと考える。

(3) 指導について

本単元では、第1学年「思考力・判断力・表現力」の指導事項「C 読むこと」の「イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること」を重点的な指導事項とする。そのために、「竹取物語の人物相関図を作る」という言語活動を設定する。

まず、「竹取物語」を読み、歴史的仮名遣いや現代と昔で使われる語の違いを理解させる。また、古文のリズムを味わいながら、音読に親しませたい。

次に、現代語訳や国語便覧などを使い、あらすじと登場人物を確認する。「かぐや姫」の話を入り口に、「竹取物語」の内容に迫っていきたい。また、人物相関図を作る際に、登場人物の理解は必要不可欠なので、登場人物一人一人について理解を深めさせたい。現代語訳と解説を読みながら登場人物の関係を読み取るのが難しい生徒もいると予想されるので、手立てとして既習事項の「星の花が降るころに」を想起させるとともに、モデルを提示するなどして支援をしていきたい。

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 (3) ア	「読むこと」において、「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の関係や思いに着目し、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えようとしている。 C (1) イ	粘り強く登場人物の関係や心情を読みとり、今までの学習を生かしながら、人物相関図を作成しようとしている。

5 単元の指導と評価の計画（5時間）

単元全体の課題 「登場人物相互の関係や心情を捉え、古文の世界を味わおう」

時	・主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習の見通しをもつ。 2 歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いについて理解する。 3 かぐや姫の話から「竹取物語」について知る。 4 冒頭部分を音読する。 5 おじいさんとおばあさん、かぐや姫の関係を相関図にまとめる。 	歴史的仮名遣いを理解できるよう、ワークシート等も活用する。	知識・技能 ア 【音読・振り返りシート】
2	<ol style="list-style-type: none"> 1 くらもちの皇子の冒険談を文語のきまりに注意しながら、音読する。 2 現代語訳と登場人物を確認する。 3 5人の貴公子にかぐや姫が出した難題とそれぞれの顛末を確認する。 4 5人の貴公子とかぐや姫の関係を相関図にまとめる。 	一斉、ペア、個人等、音読の形態を工夫して、たくさん音読できるようにする。	知識・技能 ア 【音読・振り返りシート】

3	<p>1 かぐや姫の昇天の場面を文語のきまりに注意しながら、音読する。</p> <p>2 現代語訳を確認する。</p> <p>3 かぐや姫と帝のやりとりを確認する。</p> <p>4 かぐや姫の昇天の場面を相関図にまとめる。</p>	<p>一斉、ペア、個人等、音読の形態を工夫して、たくさん音読できるようにする。</p>	<p>知識・技能 ア</p> <p>【音読・振り返りシート】</p>
4 本時	<p>1 登場人物を確認する。</p> <p>2 人物相関図をもとに、登場人物の行動や心情を改めて確認する。</p> <p>3 登場人物の行動や心情に共感できるところと共感できないところを考え、交流する。</p>	<p>これまでまとめた相関図をもとにそれぞれの人物の行動や心情をおさえられるようにする。</p>	<p>思考力・判断力・表現力 C(1)イ</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>【人物相関図・振り返りシート】</p>
5	<p>1 学習したことを振り返りながら、音読する。</p> <p>2 古文の学習を終えて思ったこと、感じたことを発表する。</p>	<p>登場人物の心情やその時その時の出来事を想起しながら、音読するようにする。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>【振り返りシート】</p>

6 本時の指導（4時間目/全5時間）

(1) 目標

登場人物相互の関係を捉えて作った人物相関図をもとに、昔の人と現代の人の物の見方や考え方を比べる。

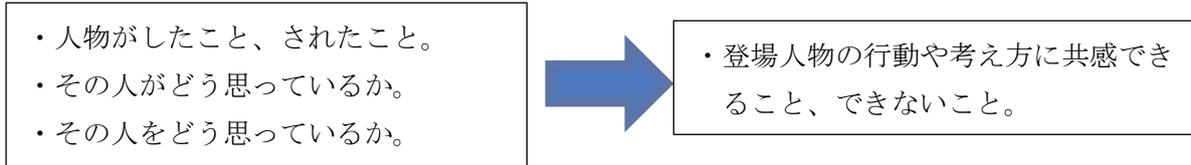
(2) 評価規準

おおむね達成	未達成の生徒への支援・手立て
<p>「読むこと」において、「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の関係や思いに着目し、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えようとしている。</p> <p>C(1)イ</p>	<p>現代語訳を手掛かりに、もしも自分がその立場になったら、どう考えるか、どう行動するか考えさせることで、古典の世界と現代の人々の考えの共通点に気づかせる。</p>

(3) 指導構想（本校の研究主題とのかかわり）

前時までに登場人物とあらすじの確認を終えている。本時は、初めに、前時までのノートやワークシートを活用して改めて登場人物とあらすじの確認をする。既習事項を活用して、人物関連図をまとめることを説明し、「星の花が降るころに」の学習を想起させる。

次に、個人で人物関連図をもとに、登場人物の行動や心情を考えさせる。考える際に表面的なものだけにならないように、ポイントを提示して考えさせるようにしたい。また、行動や心情から共感できることとできないこともあわせて考えさせ、次の班での話し合いにつなげられるようにする。



個人で考えた後は、班ごとに話し合いをさせる。自分の考えと仲間の考えを比べ、考えをより深化させる時間にしたい。行動や心情を押さえた上で、共感できる部分と共感できない部分について考えさせ、全体で共有をする。

最後に、振り返りシートを使って、古典の世界と現代の世界との繋がりや相違点などの気づきを自分の言葉でまとめる時間を取る。

本校の研究主題は学びつづける力を育てる授業実践のために、学び方を「学びの型（学びのプロセスを授業に当てはめて具体的にしたもの）」として定義し、「主体的・対話的で深い学び」に留意しながら授業改善を行い、質の高い学び、生涯にわたって主体的に学びつづけられる生徒の育成をめざして校内研究を推進している。「学びのプロセス」を重視した授業で、生徒の力を育てたり高めたりすることをねらいとし、研究内容が各教科・領域等の教育計画や授業に生かされるように取り組んでいる。

その「学びのプロセス」は、以下のとおりである。

- 《学びのプロセス》
- ① 目的意識をもちながら課題に立ち向かう
 - ② 解決までの道のりを見通し、解決方法を予想し、解決方法を学んだり選択したりする
 - ③ 予想やモデル（やり方）を参考にして熟考したり、思考錯誤したりする
 - ④ 他とのかかわりを通して課題解決する
 - ⑤ 学習をふり返り、新たな課題に向かう

(4) 展 開

段階	生徒の思考・学習過程 プロセス＝〔学びのプロセス〕★	学 習 活 動	
		生徒の活動（○主な発問等）	□指導上の留意点 ◆評価 価
導入 5分	1 見通しの確認 プロセス① ★何を学習するのか ★何ができればいいのか	1 前時までに作成した人物相関図をもとに、あらすじと登場人物を確認する。 2 本時の学習課題を確認する。	
	2 課題把握	本時の学習課題 昔の人と現代の人の物の見方や考え方をくらべながら、「竹取物語」の世界を味わおう。	
展開 38分	3 モデル理解 プロセス② ★どのようにやればいいのか	3 「星の花が降るころに」での学習を想起し、人物相関図に表れていることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・人物がしたこと、されたこと。 ・その人がどう思っているか。 ・その人をどう思っているか。 </div>	<input type="checkbox"/> 既習事項の人物相関図を提示し、イメージを膨らませる。 <input type="checkbox"/> 本文の口語訳や現代文で書かれているところを参考に考えるよう助言する。
	4 個々の課題 追及 プロセス③ ★わかりたい ★解決したい	4 人物相関図に表された人間関係や心情を確認し、現代の人と昔の人との考え方が似ているところや異なるところを確認する。	
	5 かかわり合い プロセス③ ★学びたい ★深めたい ★認められたい ★伝えたい	5 個人の考えを持ち寄り、それぞれが作成した人物相関図を見せ合い、情報を共有する。	
	6 課題解決	6 読み取った登場人物の関係性や心情について、共感できる点やできない点について班で話し合い、全体で共有する。	<input type="checkbox"/> ミライシードのオクリンクで共感できる（できない）心情や人間関係を確認する。 できる→赤 できない→青
終末 7分	7 振り返り プロセス④⑤ ★「できた自分」を褒め「分かった自分」に自信をもち「考えた自分」を認知する	7 振り返りシートに振り返りを書く。 ○ 人物相関図を作った気づいたこと、分かったことを書きましょう。	【振り返りシート】 ◆思考力・判断力・表現力 ◆主体的に学習に取り組む態度
	9 次時予告	9 これからの学習予定を把握する。	